

令和元年度 佐賀県農業大学校 評価表 (実績)

資料 3

教育目標	① 高い技術力や経営力を備えた意欲的な農業者等の育成 ② 農業・農村の発展に貢献できるリーダー等の育成		○達成度				
重点目標	1.優秀な入学者の確保 2.高い技術力や経営力の習得 3.全ての学生の進路決定 4.社会人からの就農者の確保 5.農業者研修の充実		A:十分達成できている(100%以上) B:概ね達成できている(100%未満～80以上) C:やや不十分である(80%未満～60%以上) D:不十分である(60%未満)				
目標	評価項目	令和元年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 優秀な 入学者の 確保	受験者数	・受験者50名以上	○農大の情報の発信 ホームページを各専攻月1回以上更新 講義・実習等の週1回以上の写真撮影、ホームページ掲載 校内でホームページ操作研修会の開催 広報紙「緑旗」の配布、新聞等広報媒体への情報提供	○受験者は、32名 ・ホームページを概ね毎月1回更新した。 ・農産物直売や実習等週1回の撮影を実施した。 広報紙「緑旗」の配布(年2回)、新聞等広報媒体への情報提供した。	C	・多くの受験者を確保できるよう高校との連携及び広報活動に力を入れる	
		○各機関・団体への周知 全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙に学生募集の掲載依頼 県広報紙への掲載 全ての高校訪問、募集要項、ポスター等の配付 農大の募集説明会への参加 10校以上 高校への進路ガイダンスへの参加 10回以上 地区別懇談会や同窓会組織を活用した学生募集推進	・全てのJA、市町、農業委員会へ掲載を依頼した。 ・各普及センターの広報紙に掲載を依頼した。 ・全ての高校へ募集要項・ポスターの配布、志願希望者数の聞き取りを実施した。 ・募集説明会を開催した。 ・農業系高校を中心に進路ガイダンスへ参加した。 ・PR用クリアファイルをガイダンスやオープンキャンパスで配布した。 ・地区別懇談会で学生募集のPRを実施した。(7/24、29、8/2)。				
	○農業系高校等との連携強化 農業系高校連絡会議の開催 農大への現地研修の受け入れ及び農業系高校への出前授業への積極的参加10回以上 高校生の農大施設訪問3回 未来さが農業塾生徒の農大訪問等の積極的提供	・農業系高等学校長との連絡協議会の開催した。(5/15)。 ・農業系高校を中心に募集説明会を開催した。(6/19)。 ・農業系高校へ出張講義を実施した。(延べ11回) ・農校生の農大施設訪問を実施した。 ・未来さが入塾、生徒と農大生との交流を実施した(5/10)。					
	オープンキャンパスの参加数	・オープンキャンパス参加者40名以上	○農業系高校等との連携強化 農業系高校連絡会議の開催 2回 オープンキャンパスの開催 3回 在校生との交流会の実施	○オープンキャンパス参加者:生徒48名、保護者等45名 ・農業系高等学校長との連絡協議会を開催した(5/15)。 ・農業系高校を中心に募集説明会を開催した。 ・オープンキャンパスの開催した(6/16、7/26、8/25)。 ・オープンキャンパス時に在校生との交流を実施した。	A	・1, 2年生からも農大に関心を持ってもらえるようオープンキャンパスの参加を幅広く呼びかける	
			○農大の情報の提供 ホームページを各専攻月1回以上更新 講義・実習等の週1回以上の写真撮影	・ホームページの概ね毎月1回の更新した。 ・農産物直売や実習等週1回撮影、ホームページへの掲載した。			

目標	評価項目	令和元年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 優秀な 入学 者の 確保			<p>○各機関・団体への周知</p> <p>全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙にオープンキャンパスの掲載依頼</p> <p>県広報紙への掲載、広報媒体を活用したPR</p> <p>全ての高校訪問、募集要項、ポスター等の配付</p>	<p>全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙にオープンキャンパスの掲載依頼した。</p> <p>県広報紙へ掲載した。</p> <p>・高校訪問を6月20日～7月8日に実施した。</p>	A		
	・専修化の円滑化	・専修化カリキュラムの構築(R2年度入学生)	・外部講師、関係機関とカリキュラムの調整・見直し	<p>・令和2年度からのカリキュラム検討した。</p> <p>・日本学生支援機構奨学金の円滑な申請を支援した。(7名申請)</p>	A		

目標	評価項目	令和元年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント		
2 高い技術力や経営力の習得	高い技術力や経営力の習得	【水田農業】 ○栽培管理技術の習得 ・播種から収穫・乾燥調製までの栽培管理技術の習得 到達した学生の割合100%	・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認 ・学生による栽培計画書の作成指導 ・研究機関等との連携により最新の栽培技術の習得	・実習では栽培日誌やノート等を記帳させ、定期的に提出させた。 ・収穫乾燥調製の一連の機械操作を習得させた。特に本年は、台風の影響で倒伏が酷く、過酷な条件での対応など貴重な経験が出来た。 ・卒論の品目について栽培暦や防除暦を作成させた。 ・農試の除草剤試験ほ場、水稻・麦類作況ほ場、水稻・麦類品種比較圃場などを定期的に観察させた。 ・省力化のための水稻乾田直播き栽培や酒造好適米「山田錦」のプロジェクトを行い、地域課題解決の取り組みをした。 ・ドローンによる水稻防除を2回実施した。また、現地講義を活用して九沖農研センターで、スマート水田農業の講義を実施	A	・スマート水田農業に関する知識の習得			
		【水田農業】 ○農業機械の基本操作と維持管理の習得 ・一連の作業が機械で出来る到達学生の割合100% 到達した学生の割合100% ※	・農業機械の操作指導 ・作物栽培と連動した機械作業の習得指導 ・機械作業ポイントの作成と他学生への説明会の開催	・農業機械の基本操作及び圃場作業の手引書を作成させた。 ・専攻内で機械操作のポイントを発表させ情報の共有を図り、機械操作の長い生徒と短い生徒の熟練度の平準化をした。 ・大型特殊(農耕車)免許および、けん引(農耕車)、フォークリフト免許の全員取得ができた。	A				
		○経営管理能力の向上	・経営記帳の指導	・プロジェクトで取り組む作物の収量・品質・経費等の記録を指導した。 ・プロジェクト課題のとりまとめにおいて、所得の算出方法を取得させた。	A				
	高い技術力や経営力の習得	【露地野菜】 ○栽培管理技術の習得 ・播種から収穫までの栽培管理技術の習得 到達した学生の割合100%以上	・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認 ・学生による栽培計画書の作成指導	・実習では栽培管理と観察記録を書かせ提出させた。 ・農業試験研究センターとの連携によるプロジェクト行った。 病害虫研究室:玉葱べと病防除試験 土壌肥料研究室:玉葱の施肥試験 農産物加工研究室:玉葱の加工(5回) ・プロジェクト計画書及び栽培暦の作成を行った。 ・新規品目や品種の導入及び試作を行った。(ロマネスコ、甘長とうがらし)	A			・基本的な栽培管理や機械操作は指示されたら出来るようになっているが、もう少し自ら考えて出来るようにしたい。 ・農業検定の合格率を上げるために勉強会を増やしていく。	
		○農業機械の基本操作と維持管理方法の習得 ・一連の作業が機械操作ができる学生の割合100%以上	・農業機械の操作指導 ・農業機械の作業点検方法の指導	・トラクター、防除機、定植機、収穫機、管理機等を練習させ全学生が基本的操作ができるようになった。 ・機械等の点検を実施し機械の基本的管理が出来るようになった。	A				

目標	評価項目	令和元年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	高い技術力や経営力の習得	【施設野菜】 ○IoT機器を活用した栽培管理技術の習得 ・IoT機器が活用できる学生の育成 100%	・作業日誌の記帳確認 ・IoT機器を活用した環境管理の指導	・毎朝作物の生育状況を観察させ、その日の作業・環境制御設定を検討し、作業後には日誌を記帳させることを繰り返し、観察に基づいた栽培管理の意識付けを行った。 ・環境測定機器の取り扱い方法及び設定方法、活用方法は、実習時間内に、講義と実機の操作によって習得させた。これにより、学生は自分のスマートホンでハウス内環境の確認・制御を行うようになった。 ・10日間隔で生育調査をさせ、その結果と日平均気温のデータを基に、温度と植物の生育の関係を理解させた。 ・環境制御機器の設定時に、天気予報を確認し温度と日射量の変化を予測しながら設定することで、天気予報活用の必要性と活用方法の習得を図った。	A	・よりよい農産物の生産を目指して、GAPの考えに基づいた栽培管理の実践に取り組む必要がある。	
		○経営能力の向上 ・担当する品目の所得の把握ができる 100%	・作型毎の作付け計画の作成指導 ・経営記帳の指導	・プロジェクト課題設計検討会(7/1)を実施し、専門技術員と試験研究員から助言をいただき、効率的・効果的な研究に取り組めるよう指導を実施した。 ・プロジェクトで取り組む作物での収量・品質・経費等の記録を指導し、全員に実行させた。 ・2年生全員にプロジェクト課題において、所得を算出させ、卒業論文で取りまとめた。	A		
		【花き複合】 ○花き栽培に関する基礎知識の習得 ・主要花きの育苗から収穫までの一連の栽培技術の基礎的知識を習得到達した学生の割合 100%以上 ※	・作業日誌の記帳確認 ・主要栽培品目の、播種、育苗から栽培、収穫まで一連の生態、栽培管理の基礎知識及び栽培技術取得特に担当品目(卒論課題)を決定後はその栽培計画の作成 ・農業技術防除センターや農業試験研究センターからの卒論プロジェクト課題等に関する情報提供等の支援	・主要品目の基礎的な生理生態、基礎知識の指導を実施。作業日誌で理解度を確認した。 ・上記品目の播種から栽培、管理、収穫まで一連の作業を解説し、後日質疑や作業日誌等で生徒それぞれの理解度を確認した。 ・関係機関(農業技術防除センター、農業試験研究センター、農業改良普及センター)と連携し、卒論の課題は地域課題解決に取り組んだ。2年生はEOD加温による輪ギク栽培での重油削減効果(とりまとめ)。1年生は輪ギクの密植栽培における炭酸ガス施用効果、県育成桃色輪ギクの蕾切りによる開花特性、トルコギキョウの育苗技術(LED照射)について取り組んだ。	A		
○花きの品質保持及び6次加工に関する技術の習得 品質保持及び加工技術の習得到達した学生の割合 100%以上 ※	・収穫後の花きの鮮度保持技術、フラワーアレンジメントなど加工等による流通、消費技術の指導	・収穫後の品質保持技術の知識及び技術を取得した。また、収穫後の切り花の6次加工(染色方法、フラワーアレンジメント、ラッピング)等の技術を学び、直売や収穫祭を通して消費動向を知ることができた。	A				

目標	評価項目	令和元年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	高い技術力や経営力の習得	【果樹複合】 ○主要常緑・落葉果樹の栽培技術の習得 到達した学生の割合100%	<ul style="list-style-type: none"> ・主要常緑・落葉果樹の生理生態理論について指導 ・1年生時から進路に合わせた担当品目を設定 ・果樹の高品質・安定生産技術の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前に各樹種における生育ステージ毎の理論を講義し、実習終了時に気づきおよび感想を整理させ習熟度を確認させた。 ・品目毎に栽培管理計画書を作成指導し、担当品目は生産から販売までの一貫体制で指導を実施した。さらに、品目毎に質疑を実施し習熟度を確認させた。 ・生育調査、果実分析、土壌診断等を実施し高品質果実生産のための管理技術を習得させた。 ・新技術については、果樹試験場での高度な実習を実施した。 ・卒論プロジェクト課題等について、農業技術防除センターや果樹試験場と連携し課題解決の方策の指導を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ブドウや温州みかんの根域制限栽培やナンジョイント栽培等の新技術習得用施設を建設し、新たな果樹生産技術に取り組むとともに入学時よりプロジェクト研究のための樹種を決定し、それに向けた栽培管理・販売まで一貫して取り組ませる。 	
		○経営能力の向上 果樹経営特性を理解到達した学生の割合80%以上 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹経営特性の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当品目の労働時間、使用資材、収量、販売金額等について記帳方法を指導した。 ・統計資料等と記帳結果と比較した問題点を整理させた。 ・プロジェクト課題等において比較検討し経営改善点の整理し改善点を指導した。 	A		
		【畜産】 ○繁殖生理の学習と繁殖技術の習得 到達した学生の割合100%	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜の性周期、発情兆候の理解 ・家畜人工授精技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日決めた時刻に(6:30、8:00、10:00、13:00、16:00、20:00、22:00)繁殖牛の観察を行い、繁殖牛発情状況について業務日誌及び繁殖カレンダーへの記入を実施させた。 ・繁殖牛の妊娠期間の調査を行い、昨年度との比較させた。 ・家畜人工授精講習会を受講し、基本技術習得に努めさせたが、3名不合格者が出た。 ・家畜人工授精を行い、直腸検査方法や人工授精器具の準備及び受精方法について実践させた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・試験不合格者について次回合格できるように人工授精技術の向上させる。 ・来年度は受精卵移植技術講習会開催に合わせ技術の習得に取り組む。 	
		○家畜栄養の学習 到達した学生の割合100%	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料給与技術の習得 ・各畜種(乳牛、和牛、豚)の飼料給与技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料給与と基本プログラムに基づいた飼料給与を実践させた。 ・畜産試験場での実習実施することで技術の習得をさせた。 ・子牛の発育状況確認のための子牛セリへ子牛を出荷した。 ・発育状況把握のため、毎月子牛及び肥育牛について体測実施した。 	A		
		○家畜ふん尿処理及び利用技術の学習 到達した学生の割合100%	<ul style="list-style-type: none"> ・糞尿の堆肥化処理技術の習得 ・堆肥の散布技術の習得 ・発酵舎などを利用した堆肥処理方法の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・堆肥舎での関連作業機械を操作した堆肥化処理の作業実習を実施し、その後 堆肥化に伴う堆肥の温度変化観察の実施した。 ・ローダーやマニアスプレッタ等の作業機械を用いた圃場散布作業実習の実施した。 ・畜産試験場での実習時に発酵舎における堆肥処理方法を学習させた。 	A		
		○飼料作物栽培の学習 到達した学生の割合100%	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な飼料作物生産技術の習得 ・トウモロコシ等様々な飼料作物の栽培技術習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏作、冬作の飼料作物栽培について作業機械を用いた耕起、施肥、播種、収穫、調整に関する実習の実施した。 ・毎月、飼料作物生育状況の観察の実施した。 ・畜産試験場での実習時に様々な飼料作物の栽培技術を習得させた。 	A		

目標	評価項目	令和元年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	・高い技術力や経営力の習得	【農産加工】 ○農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得 ・穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術の習得到達した学生の割合80%以上 ※	○漬物、惣菜、ソース、菓子、製粉・乾燥・レトルト等の加工等演習の実施 (1年生) ・食品衛生及び野菜・果実・穀類等を使った食品加工に関する基礎的な知識・技術習得のための演習の実(2年生) ・農産物の食品加工技術及び商品づくりの基礎知識、包装・ラベル作成等を習得するための演習の実施	○穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術習得ができた。 ○農畜産加工及び商品づくりの基礎知識習得ができた。(1年、専科) ・食品衛生法や食品表示に関する基礎知識の習得。 ・加工演習は一次加工を中心に実施、18品目の加工製造。 ・シーラー機やカップシール機等の基本的な機材操作。(2年) ・レトルト等のより高度な2次加工技術の演習を実施、19品目の加工製造。 ・真空包装機やレトルト殺菌機等の高度な機材の操作方法等について指導。	A	・売れる商品づくりに向けた技術習得の向上を目指す。 ・より安心、安全な商品づくりを目指すため、食品衛生の管理方法等を充実強化する。 ・農大オリジナル商品の開発と定番化を目指す。 ・必須の免許・資格の取得向上を目指す。	
		○学生発案によるオリジナル商品化 1商品以上	・農産加工研究会(学生の自主組織)への指導 ・直売での販売動向の把握及び分析	○農産加工研究会による試作研究 ・学生の提案をもとに、農大産の農産物を利用した試作研究の指導をした。 ・加工技術支援及び消費者意向調査方法等について指導した。 ・学生発案によるオリジナル商品化に向け技術指導。直売等において生産・販売を19品目行った。 ・直売での販売動向の把握;製造・販売・製造物品質検査記録の記帳の実施による販売動向の把握を行うための記帳を指導した。	A		
		【資格等の取得向上】 ○カリキュラムの中で必要な資格の合格率100% ※大型特殊免許、けん引免許、家畜人工授精師等 ○選択性の資格の合格率 50%以上 ※農用機免許、危険物取扱者、家畜商、ボイラー、フォークリフト、狩猟免許等	○研修の充実 ・受講期間中、合格レベルに達しない者には、適宜補講を行うなどして免許取得レベル向上の指導を実施 ・資格や免許に対応した特別講義の開催 ・小テストの実施及び解説 ・過去問題を活用した指導	○必須の免許・資格の取得(合格率94%) ・農耕用大特免許 52人 ・農耕用けん引免許 21人 ・家畜人工授精師 8人 ○選択性の免許・資格の取得状況(合格率64%) ・農業技術検定2級 3人 ・農業技術検定3級 28人 ・危険物取扱者 3人 ・毒劇物取扱者 1人 ・フォークリフト 50人 ・小型車両系建設機械 7人 ・ボイラー 13人 ・狩猟免許 1人 ・家畜商 11人 ・特別講義の開催、過去問題を活用した指導等を実施した。	B		
3 全ての学生の進路決定	・就農・就職決定率	就農・就職率100%	○就農・就職指導の強化 ・進路指導を行う専任職員の配置 ・社会人としてのキャリア教育の実践 5回 ・農業次世代人材投資事業(準備型)の支援 ・先進農家(農業法人を含む)視察研修の実施 3回 ・若手農業者との意見交換会の開催 2回 ・農業大学校での農業法人、企業等の会社説明会の実施 10回 ・ハローワークとの連携 5回 ・求人情報の提供 随時 ・インターンシップの積極的推進 ・1年生からの進路指導の強化	○就農・就職決定率 100% ・進路指導専任職員(非常勤)の配置した。 ・2年生を対象にキャリアプランニングの講義 4~6月に5回 ・1年生を対象に3月にキャリアプランニング講義を実施。 ・会社説明会の開催 (4社以上) ・求人情報の提供 63社以上 ・ジョブカフェ佐賀と連携した進路指導の強化		・早期に就農・就職指導等を実施する。	

目標	評価項目	令和元年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4	社会人からの就農者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎講座の受講者数の確保(定員20名の70%以上) ・受講者の満足度80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町や農協等の関係機関をととしての募集 ・受講者の要望に沿った講座の開催 ・アンケート調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎講座の受講者数:8名 ・受講者の満足度:基礎講座:100% <p>基礎講座の募集は、県内の市町、農協、農業公社、農林事務所、農業改良普及センターを通して、広く行った。各地に配布した募集チラシには、他の研修では体験できる機会の少ない「農作業のできるほ場研修」や「農業者との意見交換」といった過去の受講者から好評だった講座を前面に出し、魅力をPRした。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、県内は、トレーニングファームや農協による就農研修など、就農希望者向けの研修が充実している。農大は、県内の就農研修としての役割を果たしたことから、令和元年度で社会人のための就農講座を終了する。 	
5	農業者研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・受講待機者の削減 ・免許合格率:95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講待機状況に併せた研修回数の設定 ・研修の受講辞退者にも対応した受講者の調整 ・操作技術(特に、けん引)の指導方法の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・農耕用けん引を7回、大型特殊(農耕車)を15回(学生研修含む)実施した。 ・市町と受講待機者の情報を共有化した。 ・直前にキャンセルがあった時は、県機関等に受講生を募集するなど、定員を確保できるよう調整を行った。 ・定員426名に対し391名が受講した。 ・模範操作の動画や機械模型を活用し、受講生が理解できるよう努めた。 ・実際に指導員が実演したり、実習の指導方法を工夫した。 ・免許合格率は大特・けん引ともに98%だった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の待機者数を踏まえ、次年度はけん引と大特の回数を調整して待機者数の削減に努める。 	
	(さが農業経営塾) 受講者数	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者数(定員の確保)10名 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業士、青年農業士、女性農業者、農業青年クラブ員、農業法人協会会員、過去の受講者、市町、JA青年部等への周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・周知の徹底 普及センターでの青年農業者や女性農業者を対象としたプロモーションビデオの活用、農業士、青年農業士、農業青年クラブ員、農業法人協会会員、過去の受講者等へのDM送付、農業士会・青年農業士会等の会合の折にチラシを配布、新聞[佐賀新聞]や県HP掲載などで周知徹底を図ってきた。 ・その結果、15経営体(うち1経営体は夫婦で受講)が受講するとともに、各普及センターから1名ずつ農業サポート人材として受講した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・満足度が高く、受講生の確保に向けた取り組みを行う。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の満足度80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(講座前に実施) ・受講者へのアンケート調査の実施 ・運営委託業者と調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査を毎回実施し受講者の理解度を把握 講義終了後、事務運営、講義への期待度、当日講義の評価についてアンケート調査を実施するとともに、受講生の感想等の把握を図った。 ・アンケート調査結果をもとに研修内容を調整 アンケート調査結果等を参考に研修内容等について連絡・調整を図ってきた。 ・その結果、当日講義の評価については、大いに有意義だったが94%であった。 			

目標	評価項目	令和元年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
5 農業者研修の充実	(農産加工支援研修) 受講者数	・受講者数の確保 2講座 15名	・農業青年クラブ員及び女性組織等への周知	○普及センター、農政企画課、さが農村サポートセンター等と連携した募集の周知を行った。 ・会議等において、研修成果や研修内容等について事例を紹介し、関係機関担当者等への周知を行い、農業者等への啓発を依頼した。 ・基礎研修 14名 ・応用研修 6名	A	普及センター、さが農村サポートセンター、農政企画課等と連携し、農業者へ研修の周知を図る。 引き続き、食品衛生法改正に伴う食品衛生の管理方法等の支援を行う。 商品化を目指した試作研究の指導・支援を行う。	
		受講生の理解度80%以上	・6次産業化の基礎的な知識・技術に関する講義・演習の実施	○食品衛生、加工技術、歩留まり計算、原価計算、包装技術、ラベル作成等、農産加工の基礎的な知識・技術習得のための講義及び演習を実施した。 ○県内での先進事例について、視察研修を実施。 ○HACCPの制度化に向けた一般衛生管理等の知識・技術習得のための講義、演習を行う食品衛生強化研修を実施した。 ○毎回、受講後のアンケート調査を実施し、進捗状況を把握、理解度をチェックした。その結果、講座内容を概ね理解した受講生は80%以上と目標をクリアできた。	A		
		・受講者1人(組織) 1品目以上の商品化	・商品づくりと試作研究への指導 ・新商品開発能力を高める試作研究への指導	○商品化につながる試作品づくり及び新製品の開発能力のための知識・技術の指導を行い、習得できた。 ○個別計画作成指導を行い、計画策定ができた。 ○個別計画に沿って、試作研究演習を個別で実施、また、試作研究指導を実施し、技術習得ができた。 ・受講者全員、1品目以上の試作品を製造した。 ○関係機関と連携し、商品化に向けた新商品開発を行うための評価及び検討会を実施した。 その後、受講生にフィードバックしたので、今後の更なる商品開発の参考になると考える。 ○農産加工を取り入れ実勢している先進事例について、視察研修を実施。 ○HACCPの制度化に向けた一般衛生管理等の知識・技術習得のための講義、演習を行う食品衛生強化研修を実施した。	B		
	農業者組織(農業青年クラブ、青年農業士、農業士)活動の活性化	・研修に対する満足度80%以上	○農業青年クラブ員を対象とした各種研修等の実施 ○参加後の意向調査等の実施	○各種研修等の開催 ・役員理事会、三役会、各部会等を実施した(毎月1回以上) ・各種研修会等へ、非加入クラブ組織(伊万里4Hクラブ)への参加 呼びかけた。 ・農業青年会議 1回開催した(8月、参加者;23名) ・さが農業力向上セミナー 1回開催した(11月、参加者;22名) ・農業青年冬季のつどい 1回開催した(2月 参加者;67名) ・第7回次世代農業者サミットへの参加を呼びかけた(2月、参加者;6名) ・さがんマルシェの開催を予定している(3月下旬)。 ○九州沖縄地区行事の開催(佐賀県クラブ員7名が役員・理事) ・役員理事会を開催した(5月、3名) ・九州沖縄地区青年農業者会議を開催した(7月、73名) ※クラブ員の実行委員8名 ・リーダー研修会を開催した(10月、10名) ・九州農政局長と語る会を、九州農政局と共催した(12月、7名) ○研修後、参加者による意見交換会の実施。 ・農業青年会議、さが農業力向上セミナー、冬季のつどいの実施後の聞き取りでは、参加したクラブ員の8割以上が満足だったと回答した。	A	・未加入組織への加入呼びかけ・促進を行い、県内全体のクラブ活動の活性化を図る。 ・研修の充実による満足度の維持向上を図る。	

目標	評価項目	令和元年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
5 農業者研修の充実	農業者組織(農業青年クラブ、青年農業士、農業士)活動の活性化	・研修に対する満足度 やや満足以上の割合 80%以上	○青年農業士を対象とした各種研修の開催	○各種会議の開催 ・代表者会議 1回(7月 6名) ・全体会、農業士との合同研修会 1回(7月18名) ・先進地視察研修 1回(1月6名) ○各種研修会の開催 ・全体会、農業士との合同研修会 1回(7月名) ・先進地視察研修 1回(1月6名) ・県外研修への派遣 2名(11月) ・農業士活動との連携 2部会(果樹部会・特用作物部会)	A	青年農業士活動の意義等について引き続き周知していくとともに、各種研修会への参加者の強化に向け取り組んでいく。	
			○参加者へのアンケート調査実施	○研修後に参加者へのアンケート調査を実施 先進地視察では、雇用型農業経営や女性が働きやすい環境づくりについての取組状況等参考となり、参加した青年農業士の8割以上が満足だったと回答した。			
5 農業者研修の充実	農業者組織(農業青年クラブ、青年農業士、農業士)活動の活性化	・研修に対する満足度 やや満足以上の割合 80%以上	○農業士を対象とした各種会議・研修会の開催	○各種会議の開催 ・役員会議 4回(5・9・11・2月) ・佐賀県内JA代表者との意見交換会 1回(11月) ・県農政関係課長との意見交換会 1回(2月) ○各種研修会の開催 ・青年農業士との合同研修会 1回(7月) ・九州・沖縄農業士研修会 1回(11月、熊本市) ・さが農業女子サミット[女性全体研修会] 1回(1月) ○各部会活動の実施(7部会) ・農産 2回(9月 13名、2月 7名) ・野菜 1回(10月 7名) ・果樹 2回(9月 12名、3月) ・畜産 2回(12月 5名、3月) ・花き 1回(2月9名) ・特用作物 1回(2月2名) ・農業農村活性化(10月 6名)	A	農業士の役割等理解を得、積極的に活動してもらおう取り組んでいく。 特に、さが農業女子サミットについては実行委員会を立ち上げていく。	
			○参加者へのアンケート調査実施	○研修後に参加者へのアンケート調査を実施 2月にアンケート調査を実施し、やや満足以上の割合が85%であった。			

※到達した学生の割合とは、農業実習の評価基準における技術評点80～62点(100点満点で)以上の割合を80%以上とする